【木材産業高度化支援事業】

家具・木工製品の製作技術の開発

見尾貞治

1．はじめに

県内の家具・木工業界でも生活様式の変化への対応や輸入製品との競争に打ち勝つための方策が求められている。勉強会も行われている。当センターへの技術相談も年々増えている。本年度の事業はこれまでの技術相談の中から、継続的に対応していた２件について実施した。

2．実施内容

1）県産広葉樹材による木製食品容器の開発

国産及び外国産針葉樹材による木製食品容器の製造を手がけてきた事業所が、市場競争を優先して、近年はプラスチック製品の製造を主力としている。この事業所は、いま、職人の技能の継承の必要性と最近の自然回帰指向の生活様式の中での新規需要の可能性を確信して、木製新商品の開発研究を進めている。これまでの木製容器の製造技術を応用した家具・調度品等の生活用品の開発も行っている。このための新たな材料として、県内産のコナラ、クリ、ヤマザクラ等広葉樹材の利用を検討している。これまで、加工にあたっての木材特性をはじめ、変色や香り、液体容器にあっては内容物の目減りの問題等についても検討を重ねた。外部講師には伝統的な技能に対する基礎知識と商品化のための現代的なデザイン開発の手法についての指導を要請した。

2）県産広葉樹材によるインテリア家具の開発

フラッシュパネルや外国産針葉樹材による都会向けのインテリア家具の製造を得意とする事業所が、前者と同様に自然回帰指向の流れに乗れる新商品開発を進めている。ここでの目標は、日本の技術を用いて、日本の材料を活かし、日本の文化として海外へも出せる“モノづくり”である。したがって、材料は県産広葉樹材、とくに“里山の雑木”の活用にこだわりたいということである。これまで、材料の①材質特性、②製品化適性、③入手方法、④加工方法等について検討した。外部講師には日本ならではの特異性を出すためのデザイン開発と加工手法についての指導を要請した。

3．外部講師

岡山県木材加工技術試験研究アドバイザー石丸進氏（福山職業能力開発短期大学校教授）を招へいして、各事業所での現地指導を実施した。